

(様式 1)

自 己 評 価 表

松山北高等学校 (本校)
学校番号 (22)

グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)
○自ら知性を磨き、心身を鍛え、進路実現できる力を育成します。 ○生徒の魅力や可能性を引き出し、未来を切り拓く力を育成します。 ○周囲に対して感謝と思いやりを持ち、共生する力を育成します。 ○コミュニケーション能力や情報活用能力を高め、他者と協働できる力を育成します。 ○社会の課題解決に主体的に取り組み、持続可能な社会を創造する力を育成します。	○1年次、自己実現のための確かな学力を身に付けさせるため、基礎・基本を重視した教育課程を編成します。 ○2・3年次、多様な進路希望を実現するために、文系理系ごとの教育課程の編成に加え、多くの選択科目や本校生徒の特性に合わせた学校独自の科目等を開設します。 ○学校内外で実施する様々な部活動やボランティア活動を通して、健全で豊かな心とたくましい身体を育てます。 ○総合的な探究の時間や課外活動を中心に地域協働のプログラムを展開して、課題解決能力や社会貢献の精神を育成します。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
シ・エグ ・ポ リ シ ー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合 7 割以上	A	「十分に成長している」「成長している」と感じている教職員の割合は83%と概ね目標は達成している。	グラデュエーション・ポリシーを達成するために教育課程の見直しや教職員の資質向上に取り組んでいきたい。
教科指導	学習指導の充実	家庭学習の大切さを生徒に理解させ、課題の与え方を工夫して、1・2年生3時間以上、3年生4時間以上の家庭学習時間を確保させる。 A：3、4時間以上 B：2.5～3、3.5～4時間 C：2～2.5、3～3.5時間 D：1.5～2、2.5～3時間 E：1.5、2.5時間未満	C	6月の調査では、1年生が126分、2年生が121分の平均学習時間となった。11月の調査では、1年生が110分、2年生が121分で目標時間を達成できていない。3年生は11月の調査で平均が230分で概ね目標達成となった。	日々の授業と直結した適切な課題の在り方をさらに研究する。また、学習支援アプリを用いた課題の配信・提出を促進するとともに、デジタル採点機能を使用した考査の分析を活用し、生徒の学力向上につながる学習課題の内容を吟味する。
		全教科について評価の方法を明記した詳細なシラバスを公開し、選択履修や習熟度別指導の充実により、効果的な学習を進める。	A	3学年とも新学習指導要領のもと、観点別評価規準を記したシラバスを公開し、効果的な学習を進めている。	毎年、継続的に更新したシラバスを公開し、日々の授業や家庭学習に対する目標を明確化することで効果的な動機付けとなるようにする。
	総合的な探究の時間	3年間を見通した探究活動を実施し、地域の課題に主体的・協働的に取り組む姿勢と伝え合う力を養わせる。	A	3年間を見通した探究活動の流れができ、地域の課題に主体的・協働的に取り組む姿勢を養わせるよう取り組めた。	探究活動において産学連携のしくみを確立し、地域の課題に主体的・協働的に取り組む姿勢や成果を表現できる力を養わせる。
進路指導	進路指導の充実	低学年次から進路意識の高揚を図り、国公立大学200名以上、難関国立大学10名以上、 難関私立大学30名以上の合格者を目指す。 A：200、10、30名以上 B：190～200、8、24名 C：180～189、6、18名 D：170～179、5、15名 E：169、3、9名以下	B	今年度は、共通テストを利用しない学校推薦型選抜や総合型選抜の実績は昨年と同程度であった。現在、国公立大学合格を目指して2次試験まで諦めず学習に取り組んでいる生徒が多く、粘り強く受験させる指導により目標達成を目指す。	増加している総合型選抜や学校推薦型選抜について、積極的に利用する方向へシフトしているが、さらに各大学の選抜方法や内容を研究し、合格を勝ち取れる出願を目指す。1年次から3年次にかけての進路指導の連携と早期からの進路意識の醸成に力を入れる。また、大学入試を突破できる学力を身に付けさせるために各教科との連携を強化する。
		生徒との個別面談を密にし、情報提供に努める。生徒が参加しやすい時期に大学の出張講義や特別講座を実施して学問への興味・関心を高め、主体的に進路を選択できる生徒を育てる。	A	懇談時期だけでなく模試などの機会に面談を実施した。大学説明会や出張講義、土曜特別講座など様々な機会を捉えて学問に対する興味関心を高める取組を実施した。	改まった機会にこだわらず、日常の様々な機会を利用して進路について考えさせる声掛けを行う。また、出張講義や土曜特講について、生徒の実態に合わせて再検討していく必要がある。
		家庭学習や休日の学習指導を充実させるため、放課後や休日の教室開放など、効果的な学習環境を提供する。	B	3年生の放課後、土日祝日の学校開放を4月から実施した。2学期からは1・2年生の学校開放についても計画的に実施したが、3年生以外の利用率は低かった。	1・2年のうちから自主学習ができる生徒に育てることを目指して、学校開放等を活用し、長時間机に向かう習慣を身に付けさせ、学習の仕方を理解させる。
生徒指導	基本的生活習慣の育成	教職員が共通理解し、共通実践する指導体制を確立し、端正な身だしなみの徹底を図る。	B	全教職員が共通理解の下、生徒指導にあたることができていた。	身だしなみ指導の基準を見直し、生徒が自ら正しい判断行動ができるように指導する。
		気持ちのよいあいさつができる生徒100%を目指す。	B	校門や廊下でのあいさつなどしっかりとできているが、100%ではないと思われる。	「気持ちのよいあいさつ」とは何かを考えさせ、実行させる手立てを考える。
		心と時間に余裕を持って行動することの意味を理解させ、10分前登校100%を目指す。	B	大半の生徒は余裕を持って登校できているが、一部の生徒の改善が見られていない。	家庭と連絡を取り、協力して指導していく必要があると感じる。
特別活動	部活動の充実	県大会ベスト4以上の部を増加させ、県総体出場数290人以上、四国大会出場数15部以上、全国大会出場数10部以上を目指す。 A：290人、15部、10部以上 B：275～289、9～14、6～9 C：260～274、5～8、3～5 D：245～259、3～4、2 E：244、2、1以下	A	県総体出場数29部295名、四国総体出場数13部98名、全国大会出場数16部59名と上位成績を収める部が増加した。	来年度からは地区総体が無くなるため、県総体の出場数は、具体的目標から削除する。
		部活動加入率90%以上を目指し、学業と部活動の両立を図る。 A：90%以上 B：85～89 C：80～84 D：75～79 E：74%以下	A	部活動加入率は約96%と例年並みである。学業との両立ができていると回答した生徒は67%と一昨年、昨年よりも上昇している。	引き続き、部活動顧問に学業との両立や休養日の設定をお願いする。
		部活動を通して、好ましい人間関係づくりを行い、協働性や社会性を養う。	B	アンケートでできていると回答した生徒は87.6%と高い水準を維持している。	特になし
	特色ある学校づくりの推進	学校行事に積極的に参加できる生徒100%を目指す。	B	積極的に参加していると回答した生徒は97.6%であり、高いレベルを維持している。	生徒会を中心に生徒の主体性を重視した取組を行う。
		社会貢献できる生徒を育成するため、奉仕活動やボランティア活動などを積極的に推進する。	B	奉仕活動を積極的に推進していると回答した生徒は84.3%であり、複数のボランティアに参加している生徒も多い。	ポートフォリオの活用を含めて学校外のボランティア活動を案内する。
		教育相談や特別な支援を必要とする生徒に早期に対応する。また、命を大切にする心を育む。	B	生徒・保護者・担任からの相談をもとに、生徒の悩みを把握し、解決に向けて対応した。82.6%の生徒が「教育相談やカウンセリングを受けやすい環境が作られている」と回答している。	生徒実態は年々変化、多様化しており、特別な支援や家庭の支援を必要とするケースもある。必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、地域の相談機関等と連携を図る。
保健・安全管理	安心・安全な教育環境の充実	自転車の整備、ヘルメット着用の徹底、運転マナーの向上などを図り、交通事故ゼロを目指す。	C	毎月自転車事故の報告があった。高校生が関係した事故のニュースなどで注意喚起はしたが、まだまだ徹底はできていない。	青切符の導入により大きく変わる。その中で自転車は道路を走ることが多くなるが不安が大きい。年度当初からの指導を徹底する。
		防災意識を高めるとともに、学校の施設・設備の安全点検に努め、安全・安心な学校づくりを推進する。	B	消火訓練・搬送訓練・起震車体験などを含めた年3回の避難訓練により、生徒の防災意識を高めることができた。また、4・8・1月に教員による安全点検を実施し、安全・安心な学校づくりに努めた。	避難訓練の実施においては、生徒の安全が確保できるよう、様々な場合を想定した訓練を工夫していく。また、施設管理者の安全点検を確実に実施し、安心・安全な学校づくりを推進する。
		日々の清掃の指導を強化し、ゴミのない好ましい学習環境をつくる。	C	清掃が週4回から週3回に減り、校内の汚れが目立つ。教員の生徒への清掃指導の機会も減っており、学校全体で校内美化に努める必要がある。学校行事の際には、美化委員が美化活動と啓発活動を行った。	平素から、教員と一緒に活動し、生徒が積極的に清掃するよう促す。美化委員の清掃チェックなど、啓発活動も継続する。学校全体で美化意識を持って主体的に活動し、安心して過ごせる環境づくりを目指す。
		健康教育の充実	C	保健だよりを通じて生徒・保護者へ健康情報を発信するとともに、保健委員会を中心に校内の消毒や環境管理等、感染予防対策を継続することができた。	感染予防への意識や行動が薄れることがないよう、今後も年間を通して継続的な啓発を行い、予防対策の定着に努める。
	現学 ・職 ・校 ・教 ・評 ・価	授業公開や授業評価の充実	A	6月と11月に実施した。肯定的な評価の平均が80%を超える結果となっており、授業改善がおこなわれていることが分かる。	生徒の探究心や主体性を引き出すことにより、一層充実した学習活動に繋げていく。
			B	5月2日の参観授業や10月の中高連絡会に合わせて2日間の授業公開を行った。保護者や中学校、近隣の大学生に授業を参観していただいた。	来年度も引き続き授業公開を行い、外部の意見を取り入れ、分かる授業づくりに努めていく。
			A	6月18日に学校訪問研修があり、県内より多くの先生方に授業を参観をしていただく機会に恵まれ研修を積むことができた。	研究授業や相互授業参観を通じて、ICTを活用した効果的な指導方法や評価方法等について、相互研修に努めていく。
図書	読書指導の充実	朝読書の取組を徹底し、読書指導を推進することで生徒の自ら学ぶ力を育てる。	B	10分間の朝の読書を通して、考える姿勢や読解力を身に付けるとともに、落ち着いた一日のスタートを切ることができた。	先生方の理解と協力をいただきながら、全校一斉に静かな読書の時間が待っている。継続してきたい。
		魅力ある図書館を目指し、情報を発信することで利用を促進し、1人あたりの年間貸出冊数2.5冊以上を目指す。	B	図書館だよりや図書館報など、情報発信を行い読書への意識を高めた。本年度、読書感想文で5名が入選(入賞)した。1月末で一人当たり1.6冊である。	引き続き、教科やホームルームで図書館利用を促し気軽に立ち寄れる開かれた図書館を目指す。
デジタル	情報セキュリティ管理	データの分類を徹底する。	A	重要性分類の定義に沿って、校務系と学習系のデータ分類が適切になされている。	データの取り扱いについて、情報セキュリティの観点から適切な分類を引き続き継続していく。データの精選、削減について、職員全体に協力をお願いしていきたい。
	教育活動の発信	学校ホームページを充実させ、1日のアクセス数1,000以上を目指す。	B	1日の平均アクセス数は2,238、昨年から399プラスと目標を大幅にクリアしたが、北高日記のアップについては63件減少してしまった。	ここ1年間では北高日記227件、部活動日記227件、計454件の記事がアップされた。1日あたり1.24件の記事がアップされたことになるが、よりタイムリーなアップを心掛け、北高の魅力、生徒たちの生き生きとした学校生活を多方面に伝えていきたい。
人権・同和教育	人権・同和教育の充実	人権意識を向上させ、差別や偏見を許さない生徒・教職員100%を目指す。	B	人権デー、生徒人権集会を通して生徒の人権意識を高めることができた。96.8%の生徒が「人権意識を持ち、差別を許さない態度を取ることができている」と回答している。	22.8%の保護者が「わからない」と回答している。人権教育に関する情報を生徒・教員間だけでなく保護者等へも発信し、学校と家庭で共有していきたい。
		いじめにつながる恐れのある事態の早期発見と徹底対応を図る。	B	学校生活に関するアンケートを毎学期、生徒端末を使用して実施することにより、学年間、教員間で生徒の状況を迅速に把握しいじめ防止に努めた。「できている」「だいたいできている」と回答した生徒は76.3%と例年並みである。	教員間でいじめ対策に差が出ないように、課から随時情報発信をしていきたい。また、教員間の情報共有も引き続き密にしていきたい。教員間や家庭との連携を深め、生徒の不安感やSOSをより早く細やかに把握できるようにしたい。
		P T Aへの啓発活動を充実させて、保護者との連携を強化する。	B	県・市・町村が主催する人権教育に関する研修会の案内を行い、参加していただいた。人権・同和教育に関するアンケート項目について、「わからない」と回答した保護者が少し増加している。	人権・同和教育関係行事への参加はP T A人権・同和教育専門委員にほぼ限られているため、他の保護者への参加を呼びかけたい。また、人権・同和教育に関する情報を積極的に発信していきたい。
事務	施設整備対応	教育活動に支障をきたすことのないように、必要な修繕について早期の対応を行う。	C	現地確認を行い職員により対応出来るものと、業者対応とするものを見極め、出来るだけ早期の修繕に努めることができた。	年度当初に要望を聞くなどして、修繕計画を早めに立てたい。
	予算の管理	適切な予算管理による計画的な執行に努めるとともに、経費の節減に努める。	C	物品購入要望書の提出を依頼し必要量と予算の把握で節減に努めることが出来た。また、空調管理も徹底した。	引き続き予算節減のため、ムダがないか考えていきたい。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。ICTの活用や会議等業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	C	ICT活用により会議等の効率化には一定の成果が見られたが、業務量過多な部分もあり、十分な成果とはいかなかった。	引き続き、業務の精選、効率化を推進し、教職員が時間を有効に活用できるよう取り組んでいきたい。
	職場環境の整備	組織的対応を徹底し、学校全体での協力体制を整備する。教職員間のコミュニケーションを促進する。	C	体育館の臨時工事があり、授業、部活動において活動環境の悪化が見られたが、連携を取りながら対処できた。	今後でも対話を大切にし、各教職員間のコミュニケーションが促進できるよう、できることから実践していきたい。

※ 評価は5段階 (A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった) とする。